

会員通信・会 記

Neosynchiropus ocellatus.

Hisao Hamaguchi: The factors that reduce feeding rate of territorial males in *Canthigaster valentini* (Tetraodontidae).

Izumi Akagawa & Muneyuki Okiyama: Mating behaviour of *Rudarius ercodes* by undersea observation.

Naomi Tanaka: Pair territory and diurnal migration of the vagabond butterflyfish *Chaetodon vagabundus*.

Shinji Yabuta: Spawning migration of monogamous pairs in the butterflyfish *Chaetodon trifasciatus*.

Ernst S. Reese: Behavior and ecology of reproduction in butterflyfishes, family Chaetodontidae: what we know and what we don't know.

Tetsu Sato, Hiroshi Arai & Masaaki Kodama: Attack toward pair mate, female role taking over and stopping of spawning in a simultaneously hermaphroditic fish in an aquarium.

Terry J. Donaldson: Courtship and spawning behavior of the grouper *Cephalopholis spiloparaea*.

Yuji Hirose: Small sea-anemones stunt the growth of the anemonefishes.

Douglas Y. Shapiro & Daphne Fautin: Gonad development in anemonefishes: a new interpretation of protandric hermaphroditism.

Yoichi Sakai: Early sex change of an angelfish *Centropyge ferrugatus* (Pomacanthidae).

Tomoki Sunobe: Mating system and sex change for both directions in the gobiid fish *Trimma okinawae*.

Yutaka Yogo, Tetsuo Kuwamura & Yasuhiro Nakashima: Evolution of sex change among monogamous fishes: theories and facts.

(桑村哲生 Tetsuo Kuwamura)

1991年度第2回役員会

1991年7月15日(月)、於東京水産大学資源育成学科
会議室

出席者：落合、上野、本間、新井、富永、松浦、多紀、
宮、藤田。

1. 前回議事録の確認
2. 報告事項。会長：ニューヨークタイムズ紙(1991年3月14日)で長良川河口堰問題が取り上げられ、サツキマスとの関連で魚類学会を含む多くの学術団体から建設省に対して長良川河口堰建設の中止を求める要望が出されていることが紹介されている旨の報告

第3回千葉県立中央博物館自然誌シンポジウム 「生物進化と生物地理」

標記のシンポジウムを12月8日(日)、10:00-17:30、千葉県立中央博物館講堂にて行います。講演者(五十音順)と演題(仮題)は以下のとおりです。皆様お誘い合わせのうえご聴講ください。なお、シンポジウム終了後懇親会を行いますのでお気軽にご参加ください。

大場秀章(東大資料館) キリンソウ亜属(ベンケイソウ科マンネングサ属)の分類と生物地理

柏谷英一(新潟大教育) 進化生態学における種間比較と系統関係

河田雅圭(静岡大教育) 形態進化と進化の単位

直海俊一郎(千葉中央博) プチヒゲハネカクシ属 *Anisolinus* (甲虫目、ハネカクシ科)の系統と生物地理

三中信宏(農水省農環研) 分岐図の多次元幾何学: 分類学および生物地理学における言語としての順序理論

宮 正樹(千葉中央博) 分岐図からみた適応仮説：“適応”それとも祖先からの“遺産”?

望月賢二(千葉中央博) 暖海沿岸性魚類の生物地理

森田利仁(千葉中央博) 構成形態学的視点からみた形態進化——おもに貝類の殻形態を例にして——

交通: JR 千葉駅より京成バス「大学病院」行き「中央博物館前」下車徒歩5分。もしくは車で京葉道路が丘インターより5分。

問い合わせ先: 千葉県立中央博物館動物科の望月・
宮・直海まで

TEL: (0472) 65-3274(直通)/65-3111(代表)

(宮 正樹 Masaki Miya)

会 記・Proceedings

があった。編集: 38巻1号は6月下旬に発行した。
38巻2号は16篇の論文を載せる。手持ち原稿55篇、会計: 国内関係の超過ページ未納者はほとんど納入された。庶務: 本年度の文部省科学研究費補助金は210万円。第15期日本学術会議会員として第6部は平野禮次郎、有賀祐勝両氏、第4部は丸山工作氏と決まった。評議員の原田輝雄氏の逝去を悼み、弔電をさしあげた。

3. 日本魚類学会からの動物科学研究連絡委員会委員候補者として新井良一氏(国立科学博物館)を推薦することに決定した。

4. 1991年度年会の反省と今後の方針。

- イ) 講演要旨の性格をどういうものにするか論議されたが結論が得られず、今後の検討課題とすることとした。
- ロ) 分類関係の発表と生態・行動関係の発表の会場はプログラムの編成の時に検討する。
- ハ) 1992年度から実施される年会への事前参加申し込み制について、具体的に検討した。
- ニ) 年会時にシンポジウムや集談会の開催の要望が会長から出されたが、学会としては秋季にシンポジウムを実施しているので、年会時に有志で実施すれば可能であるが、現時点では人的、時間的な制約等で難しいという結論となった。
- ホ) 日本魚類学会創立(1968年4月3日)から25周年が近いので、魚類学会の創立からの歩みを40巻に載せるよう提案があった。
- 5. 編集委員長から編集に係わる人件費の増額についての要望が出されたが、次回に検討することとした。
- 6. アジア水産学会へ魚類学雑誌を今年度から寄贈することに決定した。
- 7. 魚類学雑誌第1巻1号から37巻4号までの総目録(author index, new taxon index等)が10月頃までにコンピューターへの入力が完了する予定で、簡易オフセット印刷でのページ数の見積りをすることが富永担当委員から報告された。
- 8. その他。

第4回太平洋・インド洋の魚類に関する
国際研究会議について
Fourth Indo-Pacific Fish Conference

上記会議の主催者から、このたび First announcement が届きました。First circular は申し込み制ですので、希望者は次頁の申込書をコピーしてお申し込み下さい。

First Announcement
Fourth Indo-Pacific Fish Conference
1993

Place: Bangkok, Thailand

Date: 28 November-4 December 1993

Hosts: Faculty of Fisheries, Kasetsart University; Department of Fisheries, Ministry of Agriculture and Cooperatives

Eight Major Symposia:

Systematics, behavior and evolution of elasmobranchs

Systematics, behavior and evolution of eels

Systematics, behavior and evolution of gobies

Systematics, biology and zoogeography of freshwater fishes

Systematics, behavior and biology of coral reef, estuarine and mangrove fishes

Systematics, evolution and zoogeography of deep-sea fishes

Ecology, behavior and evolution of larval fishes

Reproductive biology and genetics of fishes

Poster Session:

A large and attractive space will be available for poster display, and a special reception held for poster participants and their guests. Symposium participants are encouraged to use posters to complement or augment their oral/slide presentation.

Correspondence:

Correspondence concerning the Conference (including suggestions for additional symposium topics) should be addressed to:

Supap Monkprasit
Faculty of Fisheries
Kasetsart University
Chatuchak, Bangkok 10903
THAILAND
FAX: 5795579

Fourth Indo-Pacific Fish Conference

Name _____

Areas of Interest _____

Affiliation _____

Address _____

To receive First Circular, complete this form and mail to:

Fourth Indo-Pacific Fish Conference Secretariat

Faculty of Fisheries

Kasetsart University

Chatuchak, Bangkok 10903

THAILAND

日本学術会議だより No. 21 (1991年6月)

日本学術会議第111回総会(第14期・第7回)が、1991年5月29-31日に開催された。総会では「大学等における人文・社会科学系の研究基盤の整備について(勧告)」と「公文書館の充実と公文書等の保存利用体制の確立について(要望)」が採択され、総理大臣に提出され、関係各省に送付された。対外報告としては、「人間活動と地球環境に関する日本学術会議の見解」と「医療技術と社会に関する特別委員会報告—脳死をめぐる問題に関するまとめー」が採択された。

格第4部会員が選出された。

会員移動 (1991. 3. 1-1991. 8. 31)

日本学術会議だより No. 22 (1991年8月)

第15期会員による最初の総会である第112回総会が、1991年7月22-24日に開催された。会員による互選の結果、会長には近藤次郎第5部会員、副会長(人文科学部門)には川田侃第2部会員、同(自然科学部門)には渡邊

